

※  は市旗です。市全体の話題の場合に表記しています。

輝北 KIHOKU 農業研修生の終了式と受入式



4月6日、輝北町諏訪原の財団法人輝北町農業公社で、同社が実施している研修事業の「第9期研修生終了式と第11期生受入式」が行われました。

式では、2年間の研修を終えて、輝北地区で新規に就農する3人とその家族が出席。3人は「研修で学んだことを活かして、早く一人前の農家になりたい」と抱負を話してくれました。

また、これから2年間の研修を行う第11期研修生2人は、「研修でできるだけ多くのことを学び、先輩たちのように、早く農家として頑張りたい」と決意を話してくれました。

輝北 KIHOKU 畜産振興を祈願



4月11日、輝北町市成で「日枝神社畜産まつり」が開催されました。

このまつりは、牛馬の神として知られ「山王どん」の愛称で親しまれている日枝神社で、畜産振興を祈願して毎年行われているもので、カラオケや踊りが披露され、訪れた約3,000人が春恒例のまつりを楽しみました。

また、畜産まつりの目玉である抽選会で、特賞の黒毛和牛の子牛1頭を見事引き当てた宇山哲浩さん（霧島市）は、「まさか当選するとは思っていませんでしたので大変うれしいです」と喜んでいました。

鹿屋 KANOYA 戦没者の冥福を祈り、不戦と恒久平和の誓い新たに



▲特攻隊員の冥福を祈り献花する全国から参列した遺族



▲式辞を述べる嶋田市長



▲慰霊碑に向かって行われた儀仗隊による弔銃

4月3日、今坂町の小塚公園で、「旧鹿屋航空基地特別攻撃隊戦没者追悼式」が行われ、全国各地から遺族や元隊員など約400人が参列しました。

この追悼式は、国内最大級だった旧海軍鹿屋航空基地から特別攻撃隊として出撃していった16歳から35歳の隊員908人の御霊を慰めようといわれているもので、今年で53回目。式典では、参列者全員で国歌を斉唱した後、特別攻撃作戦などで戦死した御霊に黙祷を捧げました。嶋田市長は「隊員の無念を思う時、深い悲しみが込み上げ、ご遺族の長年の幾多の労苦と心情を思うと胸が痛みます。恒久平和の実現に努力します」と式辞を述べました。その後、桜の花が舞う下で、参列者による献花に続いて遺書朗読、生存者による「同期の桜」の合唱が行われ、戦没者の冥福を祈り、不戦と恒久平和の誓いを新たにしました。



▲特攻隊生存者による「同期の桜」の合唱

鹿屋 KANOYA 園児たちを訪問



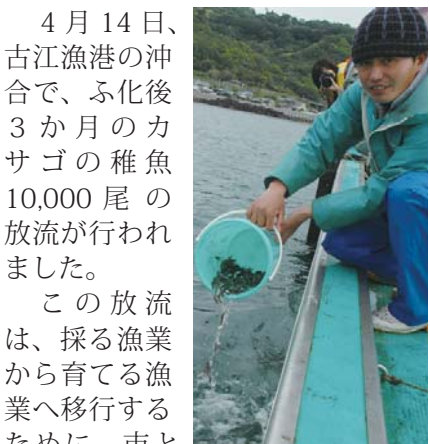
4月19日、プロレスラーの藤波辰爾さんが、西原幼稚園と野里保育園を訪問しました。これは、教育問題に関心を持つ藤波さんが、子どもたちに思いやりや協調性を教えようと、全国の保育園などを訪問している一環で行われているもの。当日、園児たちはプロレスラーの大きな手と自分の手を比べてみたり、腕にぶら下がったりするなど終始はしゃいでいました。

鹿屋 KANOYA 農作業での事故ゼロを目指す



4月16日、寿自動車学校で「農業機械安全運転講習会」が開催されました。この講習会は、農業機械による事故の防止・農作業の安全対策を目的に、市では初めて行われたもの。当日は、最近の事故事例の講習やトラクターの危険実験などが行われ、参加した約90人は「農作業での事故ゼロを目指して、安全運転に心がけたい」と話してくれました。

鹿屋 KANOYA カサゴの稚魚 10,000尾放流



4月14日、古江漁港の沖合で、ふ化後3か月のカサゴの稚魚10,000尾の放流が行われました。この放流は、採る漁業から育てる漁業へ移行するために、市と漁協が共同で行ったもので、今年で7年目。放流の成果は毎年上がっており、漁業関係者は、今年も稚魚が元気良く育ってくれることを願って放流しました。

鹿屋 KANOYA 交流の拠点めざし 店舗オープン



4月16日、西祓川町に知的障害者の植木奈々さんの作品を展示販売する「奈の花の家」がオープンしました。店舗では、手作りのビーズストラップや絵画、造花などを展示販売しています。奈々さんは、「頑張っている姿を多くの人に見てもらい、障害を抱えた人や家族の交流の場にしたい」と話してくれました。

鹿屋 KANOYA 航空基地史料館に 新コーナー



4月9日、海上自衛隊鹿屋航空基地史料館に、新コーナーが開設されました。「基地と大隅～その真実～」と題した新コーナーには、弾痕の残る鉄柱や特攻隊員が使った椅子など、およそ90点が展示。基地と鹿屋の街、市民とのつながりを紹介するコーナーとなっています。同史料館は、年末年始を除いて毎日開館しています。※開館時間＝9時～17時

鹿屋 KANOYA 灯籠を流し 戦没者の冥福祈る



4月3日に行われた特別攻撃隊戦没者追悼式に併せて、同日夜、リナシティかのや前の肝属川で「特攻隊追悼灯籠流し式」が行われました。式には、追悼式に参加した全国各地の遺族も参加。太平洋戦争中に鹿屋航空基地から飛び立った73部隊の部隊名が記された100個の灯籠が川に流され、参加者全員で平和の尊さと戦没者の冥福を祈りました。